日本フンボルト協会 2018 年度第 2 回常務理事会議事録

出席者:　櫻田嘉章理事長、縣公一郎副理事長、伊藤眞副理事長、西川伸一副理事長

常務理事:　浅田和茂、伏木信次、廣渡清吾、岡林洋、坂越正樹、髙橋宗五、高橋輝暁、高橋義人、髙山佳奈子、種村眞幸、鍔田武志、　事務局:関映子　（敬称略）

日　時:　２０１８年１２月２２日（土）１４時５分～１７時

場　所:　同志社大学　寒梅館　6 階大会議室

議　題

（1）２０１９年度総会について

２０１９年6月２日（土）に東京ドイツ文化会館で開催予定の総会の具体的内容について審議され、以下のように決定した。

1）プログラム

１２：００～１３：１０　理事会（常務理事会と合同で開催）

１３：２０～１４：００　総会

１４：００～１５：００　講演会

１５：００～１７：３０　ドイツ研究留学説明会

１７：３０～１８：００　ミニコンサート

１８：００～　懇親会

2）講演会

講演候補者として、日独研究所の Prof. Dr. Franz Waldenberger が推薦され、縣副理事長が、同氏に、日独交流をテーマとして依頼することとなった。

その後、調整の結果、「コーポレートガバナンスの日独比較」を演題として Waldenberger 氏に講演していただくことになった。

3）ミニコンサート

演奏者等については、関さん（事務局）に一任することになった。

4）懇親会

従来のような Brot und Bier による軽食の形にするか、ケータリングなどを含めた形にするかなど、具体的なことは、予算なども含めて、事務局を中心に引き続き検討することになった。

5）その他

・留学説明会開催時間中に、総会に参加した Humboldtianer と講演者の Prof. Dr. Waldenberger 氏と懇談の場を設けてはという提案がなされた。当日は、ドイツ文化会館内に懇談用の部屋を確保することが難しいため、懇談は、同会館内レスランの Bodensee 内で行う方向で検討することとなった。

・駐日ドイツ大使を、総会等に招待する提案がなされ、可能性を探ることになった。

（２）留学説明会

同総会終了後に開催される留学説明会については、概ね、例年通りの形式で行うことが了承された。留学説明会の際の領域別分科会等の会場（少なくとも６会場が必要）の確保については、Goethe-Institut の部屋などを借りる案や、外部の施設を借りる案も提案された。ただ、Goethe-Institut からは、当日、会館内の部屋を貸すことは難しい旨の意向が示されているため、各分科会会場の確保については、引き続き事務局を中心に検討することとなり、次回の常務理事会で改めて検討することとなった。なお、留学説明会の間に会員の参加できる企画について、場所、Prof. Dr. Franz Waldenberger 氏との懇談会など、引き続き検討することとなった。

（３）日本研究奨学金

１）「日独共同研究奨学金選考委員会委員一覧」、「日独共同研究奨学金選考委員会規定（内規）」、「日独共同研究奨学金審査要領（内規）」について

・伊藤委員長から、上記３点について説明があり、「日独共同研究奨学金選考委員会委員一覧」については、原案通り承認された。また、上記のふたつの規定（内規）については、各委員から、文言や内容などについて修正意見などが出され、審議の結果、文言などの修正のうえ承認された。

・また、これと関連して「日独共同研究奨学金実施要綱」について、一部、より明確な表現にすべきとの意見が出され、特に以下の３点について、改めて同奨学金ＷＧで検討し、次回常務理事会に、原案を提出し審議することになった。

１．本奨学金本来の趣旨では、助成対象者は、ドイツの教育・研究機関の feste Stelle に就いている研究者である。現状の「ドイツの教育・研究機関に属している」という表現では、日本からの短期海外研修等で、ドイツの当該機関に属している場合（日本人）も助成　対象者となりうると理解される可能性があるため、本奨学金助成対象者の資格についての表現をより明確にすべき。

２．助成対象者は「日本における共同研究」に参画するが、日本における滞在期間については、特に規定を設ける必要はないか。また、日本における」という表現は必要か。

３．現状の要綱では、助成対象者の資格として「Master/Magister 取得から十年以内」とあるが、分野（医学系）によっては、Master/Magister はないので、「Magister 取得と同等以上」などの表現にすべき。

２）日独共同研究奨学金に関するＨＰ掲載について

・本奨学金についての情報を日本フンボルト協会ＨＰに掲載する件について、具体的な掲載方法などが審議され、同協会広報委員会の方針を踏まえた形で掲載されることになった。

・掲載に関する費用負担について、様々な角度から検討され、まずは HP 委員会（Alumni Award による特別会計）の残金から支出することとなった。

３）同奨学金寄付金額について

・同奨学金寄付金額の総計は、現時点では、750 万円ほどである。目標金額（1200 万円）到達を目指して、常務理事会（本奨学金実行委員会）の構成員が、本協会の内外に、寄付依頼を引き続き行うことが確認された。また、外部団体に、寄付を依頼する際の説明資料である小冊子の作成費用は、さしあたり一般財源から支出し、後に補填する手続きをとることとなった。

・外部団体などからの寄付金額は、現状では 103 万円である。外部団体からの寄付金はすべて奨学金基金に回し、本協会会員からの寄付金については、奨学金基金と協会財政安定化基金とに５：１の比率で分配することが確認された。

４）その他

・奨学金について問い合わせは、国内外から２件あったが、応募はまだない。

・常務理事会各委員が、内外諸機関に奨学金への応募をするよう働きかけることが確認された。

（４） 支部報告

関東甲信越（伊藤支部長）

・１０月２０日（土）に上智大学四谷キャンパスで支部企画の留学説明会を開催し、５０名以上の参加者があった。引き続き行われた懇親会には、３０名ほどが出席し、留学希望者と若手フンボルティアーナーとの懇談では、申請方法などについて、具体的な意見交換が行われた。

・２０１９年３月３０日（土）ドイツ文化会館で 2018 年度支部総会を開催する予定。総会後の講演会の演者は、三島憲一会員に依頼済み。

・支部が企画する留学説明会の費用を、フンボルト財団から支援してもらう案については、活発な意見交換がなされ、同財団から支援を受けられる方策を、協会として引き続き検討することとなった。

関西支部（西川支部長）

・１０月に理事会を開催した。

・DAAD 友の会の中島那奈子会員（老いと舞踏、Pina Bausch 研究が専門）氏に Bauhaus100 周年ということで、２月２４日（日）にコロキウムとダンス・パフォーマンス の予定。

中部支部（種村理事）

・10 月 20 日（土）に支部総会、留学説明会、懇親会を KKR ホテル名古屋で開催した（参加者１０名）。当日、原正則（豊田工大）氏に「Julich での研究と日々」という演題の談話会が行われた。

中国四国支部（坂越支部長）

・坂越正樹 新支部長から、広島で開催された Flebel 国際学会の後援を行った旨の報告があった。

（５）役員改選について

・櫻田理事長から、役員構成および役員改選についての手続きについては、従来の方式を踏襲する旨の発言があった。具体的には、２０１９年１月に各支部へ役員改選を通知し、各支部での役員交代の有無を確認した上で、理事会から新役員に意志確認を行い、態勢を整える。

・役員改選に関連して、櫻田理事長から、日独共同研究奨学金制度は、今後１０年続く予定であり、本協会の役員および事務局態勢は、この点を踏まえ、中長期な視点に立ち、世代交代を含めた人選の検討を行うことを希望する旨の発言があった。

（６）その他

・櫻田理事長から、日独共同研究奨学金に対して、本協会会員 1500 人の１割程度からしか支援を頂いていない現状を重く受け止め、各支部が、本奨学金への寄付および本協会会費の支払いについて、より積極的に関与してほしい旨の発言があった。

以上

次回の２０１８年度第３回常務理事会は３月２４日（日）に東京ドイツ文化会館にて開催予定。